

主 題：私たちの父
 聖書箇所：ピリピ人への手紙 4章19節

19世紀のことですが、アメリカの東海岸でD・L・ムーディーが特別な伝道集会を行なった後、人々が集まって証会が行なわれました。そのときに一人の人物が立ち上がり証をしました。それを聞いていたすべての人たちに、この人はまだ教理においてそれほどの知識をもっていないことが明らかでしたが、彼はこのように言いました。「私はよく分からないけれど、私は信頼して従います。」と。そこにいた一人の人がその証をメモしてジョン・スミスという人に送りました。彼はその証を見て一つの讚美歌を書きました。それは皆さんもよくご存じの讚美歌です。「みことばなる光のうち、主とともに歩まば、行く道筋照らし給わんより頼む我らに、げに主は、より頼みて従う者を恵み給わん」と、聖歌の500番がこのように誕生するのです。ジョン・スミスはこんなことを言いたかったのです。1節の歌詞はこのように記されています。「みことばの光のうちを主とともに歩むとき、何という栄光を主が私たちに注いでくださるだろうか 私たちが主のみこころを為すなら、主は私たちとともにいてくださる、わたしを信頼し従う者すべてとともに、」、コーラスはこう続きます。「信頼して従え、それ以外に方法はない、イエスにあって幸せな者となる、信頼して従え。」と。どの時代であっても、みことばは私たちに「どうすることによって神の祝福をいただくのか？」ということをお教えています。私たちの信仰が成長し、神の祝福をいただくためには、私たちは神がくださったみことばにしっかりと立って、みことばに従って生きていくことです。神の基準に沿った生き方、そして、神の確信に基づいた生き方、まさに神が言われたゆえに私はそれを信じるという、そのような「信頼して従う」生き方、それこそが神が喜ばれる生き方であり、神の祝福をいただく生き方でもあります。そして、それによって私たちは成長していくのです。「主に信頼して主に従っていく」。

今日、私たちがごいっしょに見ようとしているみことばは、ピリピ人への手紙4章19節、主がすべての必要を満たしてくださるといことが教えられているみことばです。「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。」と。多くの人たちがこのみことばを覚えて、このみことばに立って、確かに、神は私のすべての必要を満たして下さるとい励ましをいただきながら、信仰生活を歩んでおられると思います。私もその中の一人です。しかし、私たちがこのみことばを学ぶに当たって覚えなければいけないことは、どのような背景でこのみことばが記されているのかということです。確かに、神は必要を与えてくださる、でも、どうしてこのような約束が与えられたのでしょうか。簡単に、このピリピ人への手紙の背景を説明します。

背景：

パウロがヨーロッパに最初に入ったときに訪問したのがこのピリピの町でした。そして、この町に教会が誕生しました。そして、このピリピ教会はパウロの働きを援助し続けました。彼らは主に仕える者たちを支援しようとして援助し続けたのです。ピリピ4：14にはこのように記されています。「それにしても、あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくれました。」と。ですから、パウロの必要を聞き、パウロの必要に応じて、パウロがすばらしい主の働きを継続していくために、彼らはパウロを支援し続けようとしたのです。ピリピの教会のクリスチャンたちは、心から、そして、犠牲的に主にささげていた者たちでした。彼らは非常に貧しかったのです。でも、彼らはささげたのです。しかも、喜んでささげました。このピリピ教会の様子をパウロはⅡコリント8章で次のように教えてくれます。1-4節「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。」と、マケドニア地方、ピリピ教会はそこに位置します。パウロはその教会についてこのように言います。「：2 苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。：3 私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、：4 聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。」、ですから、私たちはこのパウロのこことばによってピリピ教会がどのようなであったかが分かります。大変貧しかったけれど、彼らは喜んで犠牲的に自分たちの力以上のものをささげようとしていたと、これがこの教会の特徴だったのです。

そこで、そのことをよく知っていたパウロは、ピリピ4章に戻って14節の後に、あなたたちが私にすばらしい贈り物を贈り続けてくれたということを15、16節に記した後、17節に面白いことを記しています。「私は贈り物を求めているのではありません。」と言って、パウロはピリピ教会からもっと何かを送ってほしいと要求しているのではない、もう十分与えられていると言います。では、彼は何を望

んでいたのか、何を求めていたのか、そのことが後半に記されています。「私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。」と、この箇所を訳すことは大変だったことと思います。というのは、できるだけ分かり易い日本語に訳すとこのようになるのですが、この箇所を直訳すると次のようになるのです。「利益があなたの口座に増すのを私は求めています。」と、お金にまつわることばを使ってパウロは説明しているのです。なぜなら、ピリピの教会は献金をしていたからです。ですから、お金のことなので、パウロはこのように彼らに与えられる祝福について説明するのです。

どのような祝福でしょう？それはあなたたちの口座に増すという祝福です。それを私は求めていると言うのです。聖書の欄外にも「果実」と書かれています。ですから、「利益、実」があなたの口座に増すことを求めているということです。パウロが犠牲的に献身的にささげ物をしているこのピリピ教会の人たちに教えたことは、あなたたちは天に上がったときに間違いなく神からすばらしい祝福をいただくけれど、地上にあって神はすばらしい祝福を与えてくれるということです。今からそのことを見ていきますが、パウロは主の地上での祝福についてここで教えるのです。このような背景があって、19節のことばが書かれています。「神はあなたがたの必要をすべて満たす」ということばの背景には、犠牲的に喜んで主の働きのためにささげているピリピ教会のクリスチャンたちがいたのです。そのクリスチャンたちへのパウロの約束です。

☆地上における祝福

さて、19節では三つのことを見ることができます。「神の報い」と「神の約束」、そして、「神の祝福」についてパウロは私たちに教えます。

1. 神の報い

19節の初めには「また、私の神は、」とあります。ピリピ教会のクリスチャンたちはパウロの必要を覚えました。主によって用いられているパウロを援助しよう、働きを支えていこうと決心していました。そこで、彼らは献金を集めてそれをエパフロデトに託して、彼がそれをパウロのところに持ってきたのです。パウロに対してのささげ物ですから、パウロは感謝のことばをピリピの人たちに送ったら済むことですが、パウロは「私の神は、」と言います。「あなたがたの犠牲的な献金というすばらしいみわざに対して、私ではなく『私の神が』それに報いる」と言うのです。神の報い、神のみわざのことを言うのです。確かに、ローマ2：6には「神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。」と記されています。あなたの信仰の歩みはすべて神はご存じですから、それにふさわしい報いを与えてくれます。神に逆らい続ける者にはそれにふさわしい永遠のさばきがそこに待っています。クリスチャンとして神に忠実に生きた者にはそれにふさわしい報いがあります。そうでないクリスチャンにはそれにふさわしい報いがあるのです。神は不公平ではありません。すべてはあなたの信仰の歩みに、あなたの選択に懸かっているのです。そして、それに応じた神からの報いがあることをみことばは確かに教えています。ですから、パウロはここであなたたちの為したみわざには神が必ずふさわしい報いを与えてくれると言うのです。

なぜ、パウロがこのようなことを言ったのでしょうか？18節にヒントがあります。「私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。」と。ピリピ教会の人たちがパウロを援助しようとしたことですが、パウロは「あなた方のしたことは神に対して為したことであって、まさに、その行為は神への礼拝である。」と言うのです。私たちが礼拝のときに献金をささげるのと全く同じです。私たちは神に感謝を表わしているのです。神の恵みに対する応答です。ピリピ教会のパウロへの援助は神に対するささげ物である、だから、神が報いると言ったのです。非常に興味深いことをパウロは言っています。ということは、私たちが犠牲的に喜んでささげ物をするときに、神はあなたの信仰、行為を見て「わたしに対してしてくれている、まさに、それはわたしへの礼拝の行為である」と言われるのです。

なぜ、そう言えるのでしょうか？私たちが主にささげ物をするのはそれによって主のみわざが広がっていくためです。私たちは宣教師をサポートしたり様々な宣教の働きを行なったりしますが、それはキリストの福音がより多くの人たちに届くためです。より多くの人たちがすばらしい主を知るためです。私たちはその働き的一端を担っているのです。だから、神は私たちのささげ物を喜んでお受けになり、その目的のために使うのです。出て行って語る人もいます。祈る人もいます。そして、同時に、ささげ物をもってその働きが益々世界中に広がることを願ってささげる人たちもいます。かつて、マッカーサー先生が言われたことを思い出します。あるときあるご夫妻がやって来て、ご夫妻は定年退職後の自分たちの老後のために蓄えをしていたのですが、そのすべてを持って来て「私たちは老後のために蓄えていましたが、どうぞ、神のために使ってください。私たちの老後は神が養ってくれます。」と、このような人たちがいたので神学校が誕生したのです。世界宣教が広がっていったのです。

まさに、ピリピ教会の人たちも自分たちのことなど考えていないのです。彼らは神を愛するゆえに、神に仕えている者たちに、神のみわざが広がっていくために、その一端を担いたいとして犠牲的に喜んでささげたのです。そして、彼らは間違いなく働きの大切なパートを担っていたのです。ですから、皆さんが為すすべてのこと、今、していることは神に対して為しているのです。主の働きが広がるために喜んで犠牲的にささげることは決して無駄なことではありません。なぜなら、それを神は喜んでくださるからです。私たちの群れにもそのような人たちがあふれています。主のために喜んでささげようとする人たちにこの約束は確かなメッセージです。神はすべてを覚えておられます。そして、あなたは天にあって、この地上にあって神のすばらしい祝福をいただくのです。

私たちはこの地上にあって、自分の資産の賢い活用方法を考えて利回りのいいところに投資をしたり、利息の高いところに貯金をしようとする。でも、これは地上だけのことです。永遠に価値あるもののために投資をするというのは賢い選択です。多くの信仰者たちは神のために神が託してくださったものを用いることは、決して愚かな選択ではないことを知って、喜んで主にささげ続けたのです。そして、神は彼らを祝されました。しかも、永遠の祝福をもって神はその一人ひとりを祝してくださったのです。

もちろん、私たちがささげ物をするときに覚えなければならないことは、その動機です。どのような心をもってささげているかです。神は金額ではなく心を見ておられます。だから、ご自分に問い掛けてみてください。喜びをもって感謝をもってささげているでしょうか？また、愛によってささげているでしょうか？なぜなら、神を愛するゆえにささげているなら、そのささげ物は結果的に犠牲的なものになるからです。犠牲をもって愛してくださった神に答える者たちは当然、犠牲を払ってその愛に答えようとします。神は有り余るものの中から私たちに与えてくれたものではありません。ご自分のひとり子のいのちを私たちために与えてくださった、そのような愛で愛してくださったのです。その愛が分かった私たちは、犠牲をもって喜んでこの神に答えていこうとするのです。私たちのささげ物は私たちの神への愛の証としてささげているかどうか、もう一度考えてみてください。あなたが喜んで犠牲的にささげているなら神の約束は次の通りです。「神があなたを祝し、天でだけでなく、地上においてもあなたを祝してください。」、これが神のメッセージです。神が報いると言われたのです。

2. 神の約束

二つ目に「神の約束」が記されています。神の保証と言ってもいいでしょう。19節に「**あなたがたの必要をすべて満たしてください。**」とあります。「満たして」というギリシャ語は「満タンになるまで満たす、いっぱい、溢れるばかり」という意味です。まさに、そのようなところまで神は満たしてくれると言うのです。みことばをよく見ると「あなたがたの願い」とは記されていません。私たちがそのように望むのです。「私の願っていることが叶えられるように、私の望んでいること、私の思っていることが何とか神によって為されますように。」と。みことばには「**あなたがたの必要**」と書かれています。神の約束は「あなたに必要なものを神はあなたに与える」です。必要を与えるとされた神ですが、それはどのような必要でしょうか？パウロはここでどのように考えていたのでしょうか？

◎どのような必要か？

1) 物質的必要

物質的な必要を満たすということです。そのことがこの文脈に出ているからです。ずっと見ているように、ピリピの教会はささげたのです。それに対してパウロは「神はあなたがたの必要を満たす」と言いました。さらに考えると、ピリピの人たちには犠牲的にささげることによって、自分たちに必要が生じたということです。彼らのささげ物は有り余るものの中から、また、自分たちの必要を取った後の残り物の中からではありません。彼らは自分たちのことよりも神への感謝を表わしたのです。そこで、自分たちには不足が生じたのです。それに対してパウロは「あなたに生じた必要のすべてを神は満たす」と言ったのです。それがここでパウロが教えることです。ささげ物ということを考えるとき、パウロのことばを思い出しませんか？Ⅱコリント9：6に「**私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。**」と、私たちがどのようなものをささげるか、どれだけささげるか、すべてそれに懸かっているということです。あなたが喜んで主にささげたら、必ず、神はそれに答えてくださると。私たちは人間的には理解し難いことです。こんなにささげたら後どのようにして生活するのか？と私たちは思ってしまいます。だから、私たちは先ず必要なものの最低限だけは置いておきましょうとします。なぜ、その信仰が祝されないか、お分かりでしょうか？私たちは神を信頼できないのです。

なぜなら、自分の生活に必要なものをささげてしまったら、後どのようにして生活するのですか？と。ですから、私たちは自分で自分の生活を成り立たせようとするから、これだけは譲れないというところがあるのです。ピリピ教会のクリスチャンたちはそうではなかった、彼らは感謝をささげたのです。喜んで犠牲を払ったのです。神を愛するからです。犠牲を払ってくれた神に私は何をもって感謝を表わすのか？と。そして、そのように犠牲的にささげたために必要が生じた者たちにパウロは「心配しなくて

もいい」と言います。神はその必要を満たすと。「豊かに蒔く者は、豊かに刈り取る」のです。ですから、結局は私たちがどれだけ神を信頼しているかという問題です。神が言われていることを私たちが信じるかどうかです。

箴言のみことばをいくつか上げます。3：9－10「あなたの財産とすべての収穫の初物で、主をあがめよ。」、与えられたものの最初のを神のもとに持っていきなさい、先ず、神に感謝をささげようと言います。10節に「そうすれば、」このような結果が伴うと言います。「あなたの倉は豊かに満たされ、あなたの酒ぶねは新しいぶどう酒であふれる。」と。今、見ているように、私たちが感謝をもって主にささげるなら、主はそれに必ず応えてくださる、それが主の約束だ、あなたはそれを信じて従うか？と言うのです。11：25にもこのように記されています。「おおらかな人は肥え、人を潤す者は自分も潤される。」と、「おおらかな人」とは性格のことではありません。惜しみなく与える人、寛大な人、そのような意味をもったことばをソロモンは使っています。ですから、惜しみなく喜んでささげる人を神は潤すと約束しています。もう一箇所、19：17にはこのようにあります。「寄るべのない者に施しをするのは、主に貸すことだ。主がその善行に報いてくださる。」と。「寄るべのない者」というのも「弱い、貧しい人」です。必要を覚えている人です。その人にあなたが喜んで与えるなら、それはまさに神が貸したことになる、神が必ず返してくれると言うのです。

ですから、みことばは私たちにこの約束を与えているのです。あなたの必要をちゃんと満たしてくれると。問題は、私たちがどのような態度をもって主の前を生きているかです。「神は私の生活を守らなければいけません。残ったものをささげます。私は貧しいですからひもじいですから、どうぞ必要を与えてください」と、そのような人のことではありません。神を愛して喜んでささげるなら、そこに生じた必要は神は必ず満たすと言ったのです。問題はその約束を信じて従えるかどうか、その約束をくださった神を信じて従えるか、それが問われているのです。

2) 精神的必要

私たちは弱いから、そのような弱さに対しても神は必要を与えてくれます。というのは、このピリピの教会は大変な迫害に遭遇していました。ピリピ1：27－28を見ると「ただ、キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、」、福音宣教のためにいっしょに働きをしているのです。28節には「また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。」とあります。反対者たちが存在していたのです。福音宣教に反対する者たち、パウロたちの働きに反対する者たちがいたのです。ですから、彼らに驚かされるようなことがないと言っているのです。神が守ってくれるから、神が支えてくれるからです。皆さんも福音宣教の働きをするときに、いろいろなことを言われたりいろいろな摩擦が生じてその中で苦しむかもしれません。神の約束は「わたしが守るから、わたしがあなたとともにいるから」と、励ましてくれるのです。そのように心が弱りかけたときでも、感謝なことに、この神は力を与えてくれる、勇気を与えてくれるのです。

Ⅱコリント4：16に「ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」とパウロは言っています。「勇気」とは「落胆する、落ち込むこと」で、否定しているので「落胆しない、落ち込まない」となります。私たちは落ち込み易いからパウロはこのように言ったのです。皆さんもきっと経験があるでしょう。いろいろなことがあなたから希望を奪っていつてしまう、力を奪っていつてしまう。そして、希望がなくなって落ち込んでしまいます。でも、神の約束は「あなたが落ち込まないように神が守ってくれる」です。そうすると、落ち込むという選択もできるし、落ち込まないという選択もできるのです。私たちはどのような選択をしていくのかです。パウロはこの後4：17－18に「今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。：18 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」と続けます。つまり、先を見ないから落ち込むのだと言うのです。見えるものしか見ていない、周りにあることしか見ていない。その背後にいる神を見ていないし、神の約束を見ないでいるなら、私たちは落ち込んでしまうのです。

ですから、このような危険を話したパウロは、どうすればそのような危険から脱出できるのかも教えているのです。問題はそれを選択するかどうかです。ピリピ2：14－16を見るとこのように書かれています。「すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行ないなさい。」、なぜ、このようなことが書かれているのでしょうか？私たちはすぐにいろいろなことをつぶやかき神に対して疑いを持つからです。悲しいことに、私たちはそのような者だからです。いろんなことにいつもつぶやいている、いつも不満を言っている、不平ばかり言っている。そのような歩みを選択することもできます。でも、すでに見たように、そ

の誤った信仰生活への報いは来ます。その証拠にその人の歩みには喜びがありません。パウロはそのような選択をしてはいけないと言います。「:15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあつて傷のない神の子どもとなり、:16 いのちのこばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。」と、私たちがこの世にあつてキリストのすばらしさを証するためにつぶやいてはいけない、神に疑いをもってはいけないと言うのです。もし、あなたが正しい選択をするなら「そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。」、つまり、正しい選択をしていくならキリストの前に立ったときに、私の選択は間違っていないことになります。なぜなら、神が喜んでくださり神が祝して下さるからです。

皆さん、気付かれましたか？落ち込もうと思うならいくらでも落ち込めます。そして、悲しいことに、自分の選択で落ち込んでいる信仰者はいっぱいいます。その人たちはだれも責めることはできません。自分をしっかりと吟味して悔い改めて出て来ることです。みことばは教えてくれます。神はそこから解放してくれるのです。でも、そこに留まっていたい人は留まり続け、つぶやき続けます。

また、ピリピ4：6には「何も思い煩わないで、」とあります。私たちはいろんなことで思い煩うからです。心配ばかりします。でも、みことばは言います。「あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」、選択はあるのです。ずっと思い煩いながら生きるのか、それとも、心を煩わしているその問題と思えることも神に感謝して、神に従っていくかです。続く4：7には「そうすれば、」とあります。「人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってくれます。」と。驚くべきことです。みことばは私たちに教えています。私たちの弱さ、私たちの愚かさを教えた上で、私たちはキリストにあつて勝利できることを。どうするのかを教えているのです。でも、残念なことは、その選択をしている人がそれ程多くないということです。だから、神によって救われ神の祝福をいただいている者として、すばらしい神の栄光を現わしながら生きることができているのに、その生き方をしていない信仰者がたくさんいるのです。その不信仰を悔い改めなければいけません。

みことばはこのように言います。「顔が、水に映る顔と同じように、人の心は、その人に映る。」と、箴言17：19にあるソロモンのことばです。その人の顔を見たらその心が分かると言うのです。心が塞いでいる人がたとえ喜びの顔を作ったとしても、それが偽物であることは明らかです。「人の心は、その人に映る。」のです。あなたの心が喜んでいたら、それは確実に外に出ています。このような信仰者として、神が与えてくださったその祝福のすばらしさを世に証するために、私たちは救われ生かされているのです。みことばは私たちにどのような選択をすればいいのかを教えています。どうすれば今抱えている問題に勝利できるのか、どうすれば落ち込みに勝利できるのか、どうすれば不安に対して勝利できるのか、思い煩いに勝利できるのか、どうすればいつもキリストのすばらしさを証できるのかを教えてください。問題はそれを信じて従うかどうかです。そのことを知っていても行かないというのは「知らない」ということです。知っている人は行きます。神はすばらしいと言っているが、神を信頼していなかったのでしょうか？神は全知だ、全能だと言いながら、神に信頼していなければどうでしょうか？神に信頼するよりも人間を信頼するというのはどうでしょうか？その人の知識はその歩みにどんなに役立っているのでしょうか？

皆さん、私たちがどのような選択をするかです。感謝なことに、神はあなたの必要を満たしてくれるのです。弱いあなたのことを知っているのです。パウロは「だれかが弱くて私が弱くないということがあるのでしょうか。」と、私も弱い者だと言っています。ですから、神の助けが必要なのです。感謝なことに、精神的な部分においても神の助けは与えられるのです。みことばはそのことを教えています。それを信じて従うかどうかです。

3) 霊的必要

もう一つ、霊的な必要にも神は応えてくれます。というのは、私たちの日々の信仰生活において、感謝なことに、神は私たちの罪を赦し続けてくれます。Iヨハネ1：9にこのように教えています。「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」と。私たちはそのようにして成長するのです。私たちは日々罪と向き合っていて、その罪を神の前に告白することによって成長するのです。もし、私たちが心のうちに罪を抱えているなら、残念ながら、それがあなたの成長の妨げとなっているのです。あなたは日々、その罪を言い訳しないで告白していますか？

同時に覚えることは、あなたが抱えているその試練も実は神があなたを成長させるために与えてくださったものだということです。ヤコブ1：12に「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」とある通りです。なぜ、神はこの人を私

の生活の中に置かれたのかとか、なぜ、神はこのような境遇に私を置いておられるのかとか、なぜ？ということが私たちの周りにはあります。私たちがそのことを口にしているときは、必ず、なぜ？という対象が私たちから除かれたなら感謝しますと言うでしょう。でも、神は敢えてそれをあなたに与えてくれたのです。あなたの信仰が成長するためです。ですから、私たちはほとんどの場合にしないことをしなければなりません。それは、その障害と思えることを神に感謝することです。そして、神が備えてくださったレッスンをしっかり学ぶことを心から願って、主に従い続けていくことです。そのときに、あなたは成長するのです。

もし、問題のない生活をあなたが望んでいるとするなら、あなたは大きな間違いをしています。問題がないと私たちは信頼することを学ばないのです。本当に困ってもう行き場がないところに追い込まれて初めて、私たちは神を見上げることをするのです。自信家の私たちは、そのようにすべての点で神に信頼するなんてプライドが許さないとします。でも、神はそれらを愛をもって砕いてくださる。そして、私たちは神を正しく見上げる者に変えられていくのです。面白いことに、その一つの問題が過ぎ去ったら私たちはまたすぐに自信家に戻ります。ですから、祈りを考えてください。悩みがあるときの祈りは熱心ですが、それが無くなると私たちは祈りを忘れてしまいます。いかに身勝手か、私たちの愚かさはそのようなところにも見ることができます。

ですから、確かに、パウロは言います。神はあなたの必要を満たしてくれる。犠牲的にささげたために必要が生じた者たちの物質的な必要を満たすと。同時に、信仰者が抱える様々な精神的な必要、霊的な必要も神は満たしてくれる、なぜなら、神はあなたを愛しているからです。あなたが成長するために神はそのようなみわざを為してくれるのです。

私たちは「神の報い」について「神の約束」についてみて来ました。

3. 神の祝福

もう一つ、「神の祝福」が19節に記されています。「…キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、」と。「キリストにある栄光の富」とはキリストがもっておられる「富」のことです。その「富」は栄光にあふれたものです。そして、「もって、」という前置詞は面白いことばです。私たちが考えるのは、神はすべてをお持ちであって、その中の一部を私たちに提供して下さるということです。豊かな神が私たちの必要に応じてその一部を与えてくださると。実は、ここではそんなことを言っているのではありません。この「もって、」ということばは「何かの中から」ではなくて、「何かに応じて」という意味です。ご自分の栄光の富に応じてあなたの必要を満たすと言ったのです。神はもっておられるものにふさわしくあなたに与えると言われたのです。栄光の主が栄光の富をあなたに与えてくれるということです。別の言い方をするなら、神が与えると約束されたものは神の豊かさに比例したものです。また、神が与えてくださるものは、神の豊かさを的確に現わしたものだと言うのです。

たとえば、大変なお金持ちがいて、その人のところに寄付をくださいと言ったとして、その人が千円をくれたとすると、それはその人の財の中のごく一部です。そのようなことをここで言っているのではありません。寄付をくださいと言ったときに、その人は100万でも1000万でもくれたなら、それはその人が豊かだということをその行為で表わしたということの意味です。そのことを言っているのです。神は栄光の富に応じてあなたに与える。だから、あなたがいただいたものを見ると、それはそれを与えてくれた神のすばらしさを表わすということです。神のすばらしさが現われるものを神はあなたに提供すると言うのです。

神がくださるものはみなそうです。それを見るときに、私たちは神がどんなにすごい方が分かります。たとえば、イエス・キリストの十字架を見たとき私たちは思います。何と神はすごい方か、ご自分のひとり子さえ喜んで犠牲にしてください、その神のすばらしいご愛を見たときに、私たちはただただ驚きます。神がささげてくださったものは神ご自身を象徴しているからです。神ご自身を証しているからです。神がどのようなお方かを教えているのです。神は喜んで犠牲を払ってくれる…と。

ですから、パウロはこのエペソ4：19で、神はあなたの必要を満たす、そして、そのあなたに必要が与えられるときに、与えられたあなたは神に心から感謝をすると言うのです。なぜなら、あなたにはあなたの必要に応じて与えられるからです。つまり、本当に必要なその金額が与えられるのです。神はあなたの必要を本当に知っているのです。しかも、最善なときに与えられるというのは、神にいかにか恵があるかということ私たちに教えるのです。皆さんも経験されているかもしれないし、そのような証をお聞きになったでしょう。神は本当に最善のときをご存じだと。ですから、パウロが約束したことは、神は必要を与えてくれる、しかも、それを与えるときに、神はご自身の栄光の富に応じて与えるということです。まさに、神が与えてくれるものは神ご自身のすばらしさを証するものであり、そして、そのすべてをもって、神がいかにか偉大なお方であるかを私たちに明らかにするのです。すごい約束です。神は私たちにすばらしい神のみ栄を見せてくれるのです。

今日、私たちは「私たちの父、私たちのお父さん、父なる神」について学んで来ました。どんなにすばらしい祝福を私たちはいただいているかです。でも、この祝福をいただきながら日々を歩いていくために必要なことがありました。私たちはそれを信じて従うことです。チャールズ・ウェスレーがこんなことを言っています。「信仰、力ある信仰は約束を覚え、それだけに安心して頼る。数ある不可能を嘲笑し、そして、約束は必ず為されると言う。」と。力ある信仰は神の約束にしっかり目をやって、そこに安らぐものです。神が言われたのだからその通りに必ずなるというその安心をもって歩む、それが力ある信仰だと。私たちの肉が不可能だということに対しても、私たちはそれを嘲笑するのです。あざ笑うのです。そして、こう言うのです。「神の約束は必ず為される」と。

こんな信仰者でありたいと思いませんか？チャールズ・ウェスレーはそのように望みました。私たちもそのような信仰者として歩むことができるのです。すべてのカギは「神を信頼して神に従うこと」です。その選択をあなたがするときに、あなたも神によって変えられていきます。ここにいらっしゃるすべての信仰者がその選択をもって、このような力強い信仰者として、どんなときにも神を信頼して従う信仰者として歩んでくださることを願います。そして、その一歩が今日から始まることを期待します。